15　「うつほ物語」─中古の作り物語

21年度　関西大学

★　次の文章は、『うつほ物語』の一節で、が東宮との間の第三子を出産する場面から始まる。これを読んで、後の問いに答えよ。

　かかるほどに、つごもりになりて、いと平らかに男まれたまへり。もなくておはしつるほどに、生まれたまへり。人々は聞きあへたまはず。ど、、喜びたまふこと限りなし。いかならむ、と思ひつるたびしも、何ごともなくしたまへれば、生まれたまひつる皇子を、うつくしみおはさふ。

　り、御①立ち返りあり。おとど、むつましく仕うまつる人を御に召して、よろづ調じて参りたまふ。思ふやうに人のえせぬをば、御手づからしたまふ。御腹ａの君たちは、籠もりておはす。御手づからしたまへば、君たち、「何ごとをか仕うまつらむ」と聞こえたまへば、おとど、「そこたちは、まだならむ。は多くの子、の母もいたはりらひたり。かかる人をば、この折によくいたはり、心知らひつれば、かたちもに損なはれぬものなり。宮ｂのようすなるに、やかさでこそは参らせめ」とて、よろづにありがたきものをして参りたまふ。

　したまはぬ人なく、いと清らにしたまふ。宮より、七日のは、御、御よりはじめたまひて、長持ｃの脚つきたる三つ、②に、、よりはじめて、よろづの物入れさせたまへり。御文あり。御使は大夫。

たびたびｄのは見たまへき。みづからのたまはねば、おぼつかなくなむ。いかにと思ふしるしにや、異なることなくてものしたまふなるを喜び。よろづのこと見ぬものとなりにけるこそ、改めまほしくこそ。さてこれは、旅人のにとて。あまたｅの親になりたまひぬるをなむ、いとあはれに。今は、とく対面もがなとのみなむ。さりぬべくは、夢ばかりも、みづからものたまへ。うちも驚かされたりとも、いとよく見えつべしや。

とて奉りたまへり。

　大宮見たまひて、「Ⓐかく人の親になりたまひて、心しておはしますこそあはれなれ。『おぼつかなし』とあめるを、御返りごとも、しながら聞こえたまへかし」とのたまへば、聞こえたまふ。

承りぬ。まだ筆も取られはべらねば、「おぼつかなし」とのたまはせたれば、臥しながら聞こえさする。いかにと思ひ嘆きつるを、今日まではかく聞こえさするを、後はいかが。「人の親に」とかのたまはせたるは、かつは「Ⅰ」とかいふなることをなむ。今かう思ひｆたまふるこそ。Ⅱ旅人に賜はせたるものは、Ⅲあるじまでなむ喜びきこゆる。ことごとには。

と書きｇたまへれば、宮包ませｈたまひて、御使に女のひ、になど賜ひて、奉りｉたまひつ。

　宮の御方より、子持ちの御の御ものの、の御、、いと清う調じて奉れり。白きに黄ばみたる絵きて、白き、黄ばみたる積みたり。御石の台に、例の鶴あり。に、

　　行く末も思ひやらるる石にのみ千歳の鶴をあまた見つれば

との君の手にて書きたまへり。

注　＊１　おとど＝藤壺の父、源正頼。

＊２　宮＝ここでは藤壺の母、大宮。

＊３　宮＝ここでは東宮。

＊４　宮＝ここでは藤壺の母、大宮。

＊５　＝誕生祝いの儀式。

＊６　闇に＝「人の親の心は闇にあらねども子を思ふ道にまどひぬるかな」の古歌を引く。

＊７　一の宮＝藤壺の、次に登場する大将の君の妻。

＊８　大将の君＝藤原仲忠。

問１　出産の様子として、最も適当なものを次の中から一つ選べ。

ａ　月末になって、とても安産で男の子がお生まれになった。生まれる気配もないあいだにお生まれになった。人々はお生まれになったと聞かされることはなかった。

ｂ　月がかわって、とても安産で男の子がお生まれになった。藤壺が意識を失っていらっしゃるあいだにお生まれになった。人々は出産なさるとの報を聞いてかけつける間もないほどであった。

ｃ　月末になって、とても安産で男の子がお生まれになった。藤壺が意識を失っていらっしゃるあいだにお生まれになった。人々はお生まれになったと聞かされることはなかった。

ｄ　月がかわって、とても安産で男の子がお生まれになった。生まれる気配もないあいだにお生まれになった。人々は出産なさるとの報を聞いてかけつける間もないほどであった。

ｅ　月末になって、とても安産で男の子がお生まれになった。生まれる気配もないあいだにお生まれになった。人々は出産なさるとの報を聞いてかけつける間もないほどであった。

問２　出産後の藤壺の両親の様子として、最も適当なものを次の中から一つ選べ。

ａ　藤壺の父も母もお喜びになることこの上ない。今度の出産はどうなることだろうと思っていたが、何事もなく無事に出産を終えられたので、お生まれになった皇子を、お二人ともに慈しんでいらっしゃる。

ｂ　藤壺の父も母もお喜びになることこの上ない。これから先どうなることだろうと思っていたが、何も失うことなく母子ともに無事だったので、お生まれになった皇子を、美しい皇子であると語り合っていらっしゃる。

ｃ　藤壺の父も母もお喜びになることこの上ない。今度の出産はどうなることだろうと思っていたが、何も失うことなく母子ともに無事だったので、お生まれになった皇子を、お二人ともに慈しんでいらっしゃる。

ｄ　藤壺の父も母もお喜びにならないことがあろうか。これから先どうなることだろうと思っていたが、何も失うことなく母子ともに無事だったので、お生まれになった皇子を、お二人ともに慈しんでいらっしゃる。

ｅ　藤壺の父も母もお喜びにならないことがあろうか。今度の出産はどうなることだろうと思っていたが、何事もなく無事に出産を終えられたので、お生まれになった皇子を、美しい皇子であると語り合っていらっしゃる。

問３　藤壺の父はどのような様子だったか。最も適当なものを次の中から一つ選べ。

ａ　親しくお仕えしている人とともに御前に出て行き、藤壺にいろいろと食事の用意をしてさしあげられる。思ったように女房たちができないので、みずから準備をなさる。

ｂ　親しくお仕えしている人とともに御前に出て行き、藤壺に何から何までそろえてくださる。思ったように女房たちができないと、みずから準備をなさる。

ｃ　親しくお仕えする人を御前に呼び寄せて、藤壺にいろいろと食事の用意をしてさしあげられる。思った女房たちがやって来ないと、みずから準備をなさる。

ｄ　親しくお仕えする人を御前に呼び寄せて、藤壺にいろいろと食事の用意をしてさしあげられる。思ったように女房たちができないと、みずから準備をなさる。

ｅ　親しくお仕えする人を御前に呼び寄せて、藤壺に何から何までそろえてくださる。思ったように女房たちができないので、みずから準備をなさる。

問４　子どもたちから質問を受けたとき、藤壺の父はどのように答えたか。最も適当なものを次の中から一つ選べ。

ａ　「おまえたちはまだまだ不慣れであろう。おじいさんというものはたくさんの子どもや孫の母をいたわることに慣れているのだ。こんなおじいさんをこういう時はよくいたわり、気を配ってくれれば、礼儀を損なうことなどないものだ。藤壺がよく思えるように、時を無駄に費やすことなく、皆で面倒をみるように」と答えた。

ｂ　「おまえたちはまだまだ不慣れであろう。このじいさんはたくさんの子どもや孫の母をいたわることに慣れているのだ。このような産婦をこういう時はよくいたわり、気を配ってやれば、器量も損なわれないものだ。東宮がしてくださっているようだから、やつれた姿でなく参内させたいものだ」と答えた。

ｃ　「おまえたちはまだまだ不慣れであろう。このじいさんはたくさんの子どもや孫の母をいたわることに慣れているのだ。おまえたちのような者がこういう時のいたわり方を知れば、礼儀を損なうことなどないものだ。藤壺はおまえたちのことをよく思っているようだから、皆で面倒をみるように」と答えた。

ｄ　「おまえたちはまだまだ不慣れであろう。おじいさんというものはたくさんの子どもや孫の母をいたわることに慣れているのだ。このような産婦をこういう時はよくいたわり、気を配ってやれば、器量も損なわれないものだ。藤壺はおまえたちのことをよく思っているようだから、時を無駄に費やすことなく、皆で面倒をみるように」と答えた。

ｅ　「おまえたちはまだまだ不慣れであろう。このじいさんはたくさんの子どもや孫の母をいたわることに慣れているのだ。このじいさんをこういう時はよくいたわり、気を配ってくれれば、何事もうまくゆくものだ。東宮が寵愛してくださっているようだから、やつれた姿でなく参内させたいものだ」と答えた。

問５　東宮からの手紙の前半部にはどのようなことが書かれていたか。最も適当なものを次の中から一つ選べ。

ａ　私からのたびたびの手紙はご覧くださいましたでしょうか。あなたからのお返事がないので、どうしたことかと心配でした。安産を願っていたがあってか、何事もなくご出産されたことを心から喜んでいます。出産にかかわることはすべて見てはならないことになっており、これはあらためたく思います。

ｂ　あなたからのたびたびの手紙は拝見しました。ご自身でお書きではないので、どうしたことかと心配でした。いったいどうなることかと思っていましたが、何事もなくご出産されたことを心から喜んでいます。出産にかかわることはすべて見てはならないことになっており、これはあらためたく思います。

ｃ　私からのたびたびの手紙はご覧くださいましたでしょうか。あなたからのお返事がないので、どうしたことかと心配でした。安産を願っていた甲斐があってか、何事もなくご出産されたことを心から喜んでいます。あれこれご覧になっていらっしゃらないことは、あらためて頂きたいものです。

ｄ　あなたからのたびたびの手紙は拝見しました。ご自身でお書きではないので、どうしたことかと心配でした。安産を願っていた甲斐があってか、何事もなくご出産されたことを心から喜んでいます。出産にかかわることはすべて見てはならないことになっており、これはあらためたく思います。

ｅ　あなたからのたびたびの手紙は拝見しました。ご自身でお書きではないので、どうしたことかと心配でした。いったいどうなることかと思っていましたが、何事もなくご出産されたことを心から喜んでいます。あれこれご覧になっていらっしゃらないことは、あらためて頂きたいものです。

問６　東宮からの手紙の後半部にはどのようなことが書かれていたか。最も適当なものを次の中から一つ選べ。

ａ　さて、これは里に下がっているあなたのためにということで贈りました。何人もの親になられて、とてもおしく思われます。今は早く対面したいとばかり願っています。そうできるのでしたら、ほんの少しでもご自身の筆でお返事をください。夢の途中で起こされたとしても、きっとしっかり拝見いたしましょう。

ｂ　さて、これは旅に出ている私からのお祝いということで贈りました。何人もの親になられて、とても愛おしく思われます。今は早く対面したいとばかり願っています。そうできるのでしたら、夢の中でもよいのでお返事をください。寝ている間に目が覚めたとしても、きっとしっかり拝見いたしましょう。

ｃ　さて、これは里に下がっているあなたのためにということで贈りました。何人もの親になられて、とても愛おしく思われます。今は早く対面したいとばかり願っています。それがかなわなければ、夢の中でもよいのでお返事をください。寝ている間に目が覚めたとしても、きっとしっかり拝見いたしましょう。

ｄ　さて、これは旅に出ている私からのお祝いということで贈りました。何人もの親になられて、とても愛おしく思われます。今は早く対面したいとばかり願っています。それがかなわなければ、ほんの少しでもご自身の筆でお返事をください。夢の途中で起こされたとしても、きっとしっかり拝見いたしましょう。

ｅ　さて、これは里に下がっているあなたのためにということで贈りました。何人もの親になられて、とても愛おしく思われます。今は早く対面したいとばかり願っています。それがかなわなければ、ほんの少しでもご自身の筆でお返事をください。寝ている間に目が覚めたとしても、きっとしっかり拝見いたしましょう。

問７　藤壺の手紙の前半部にはどのようなことが書かれていたか。最も適当なものを次の中から一つ選べ。

ａ　お手紙拝読しました。「心配だ」とお書きになられていたので、臥したまま手紙を書き取らせています。どうなってしまうだろうと思い嘆いていましたが、今日まではこうしてお話をお聞きできるほどには、過ごして参りました。ですが、これから先どうしてよいかわかりません。

ｂ　お手紙拝読しました。「心配だ」とお書きになられていたので、臥したまま手紙を書いています。どうやって手紙を書こうかと思い嘆いていましたが、今日まではこうしてお手紙をさしあげられるほどには、過ごして参りました。ですが、これから先どうしてよいかわかりません。

ｃ　お手紙拝読しました。「心配だ」とお書きになられていたので、臥したまま手紙を書いています。どうなってしまうだろうと思い嘆いていましたが、今日まではこうしてお手紙をさしあげられるほどには、過ごして参りました。ですが、これから先のことはわかりません。

ｄ　お手紙拝読しました。「心配だ」とお書きになられていたので、臥したまま手紙を書き取らせています。どうなってしまうだろうと思い嘆いていましたが、今日まではこうしてお話をお聞きできるほどには、過ごして参りました。ですが、これから先のことはわかりません。

ｅ　お手紙拝読しました。「心配だ」とお書きになられていたので、臥したまま手紙を書いています。どうやって手紙を書こうかと思い嘆いていましたが、今日まではこうしてお話をお聞きできるほどには、過ごして参りました。ですが、これから先のことはわかりません。

◎問８　一の宮の御方から贈られてきた作り物を説明するものとして、最も適当なものを次の中から一つ選べ。

ａ　石の上には、めでたい作り物の鶴が据えられてあるのに、洲浜には「冷たい石の上に千歳を生きるという鶴がたくさんいるのが見えるので、お生まれになったばかりの皇子の将来のことが憂慮されて仕方ありません」という不吉な歌が記されていた。

ｂ　石の上には、めでたい作り物の鶴が据えられてあって、洲浜には「堅固な石の上に千歳を生きるという鶴が数羽いるのが見えるので、お生まれになったばかりの皇子とともに歩み続ける将来のことにあれこれ思いをせます」という喜びの歌が記されていた。

ｃ　石の上には、めでたい作り物の鶴が据えられてあるのに、洲浜には「冷たい石の上に千歳を生きるという鶴が数羽いるのが見えるので、お生まれになったばかりの皇子にこれから先、悪いことが起きるのではないかと思いやられて仕方ありません」という不愉快な歌が記されていた。

ｄ　石の上には、めでたい作り物の鶴が据えられてあるのに、洲浜には「冷たい石の上に千歳を生きるという鶴がたくさんいるのが見えるので、お生まれになったばかりの皇子のこれから先のことがあれこれ不安で仕方ありません」という悲観的な歌が記されていた。

ｅ　石の上には、めでたい作り物の鶴が据えられてあって、洲浜には「堅固な石の上に千歳を生きるという鶴がたくさんいるのが見えるので、お生まれになったばかりの皇子の末永い将来のことにあれこれ思いを馳せます」というお祝いの歌が記されていた。

問９　傍線部Ⓐを現代語訳せよ。

　　［

］

【確認問題】

１　波線部ａ～ｅ「の」文法的意味をそれぞれ次から選べ。なお、同じ記号を何度用いてもよい。

ア　主格　　イ　連体修飾格

ウ　同格　　エ　体言の代用

ａ〔　　　〕　ｂ〔　　　〕　ｃ〔　　　〕

ｄ〔　　　〕　ｅ〔　　　〕

２　二重傍線部①・②の説明として適当なものを、それぞれ次から選べ。

①　消息

　ア　言動　　イ　生死

　ウ　手紙　　エ　容姿

②　唐櫃

　ア　唾を吐き入れる器

　イ　衣類などを納める六脚の箱

　ウ　化粧道具を入れる大小二つ重ねの箱

　エ　手紙などを入れておく箱

３　波線部ｆ～ｉは「たまふ」の活用語であるが、敬語の種類が他と異なっているものを一つ選べ。また、異なっているものの敬語の種類を次から選べ。

ア　尊敬語　　イ　謙譲語　　ウ　丁寧語

異なっているもの〔　　　〕

敬語の種類　　　〔　　　〕

【補充問題】

４　傍線部Ⅰ「闇に」とあるが、藤壺は東宮にどういうことを伝えようとしたのか。最も適当なものを次から選べ。

ア　子どもを育てる身となって、このさきどうしたらよいか不安であるということ。

イ　子が生まれてしばらくつのに、親になった実感が未だにわかないということ。

ウ　人の親の心情は、子どもが生まれた今となってもわからないということ。

エ　人の親となった戸惑いを隠せない東宮　の気持ちはよくわかるということ。

５　傍線部Ⅱ「旅人」、Ⅲ「あるじ」は誰のことを指しているか。それぞれ次から選べ。

ア　おとど　　イ　東宮　　ウ　大宮

エ　藤壺　　　オ　御使　　カ　下人

Ⅱ〔　　　〕　Ⅲ〔　　　〕

６　『うつほ物語』は平安中期に成立した物語であるが、『うつほ物語』について説明したものをＡの語群から選べ。また、これより後に成立した作り物語を、Ｂの語群からすべて選べ。

Ａ　ア　最初の擬古物語である。

　　イ　最初の長編物語である。

　　ウ　最初の歌物語である。

　　エ　最初の短編物語集である。

Ｂ　ア　源氏物語

　　イ　竹取物語

　　ウ　堤中納言物語

　　エ　伊勢物語

【解答】

問１　ｅ

問２　ａ

問３　ｄ

問４　ｂ

問５　ｄ

問６　ａ

問７　ｃ

問８　ｅ

問９　Ａこのように（東宮が）人の親にＢおなりになって、Ｃ心を配ってＤいらっしゃることがＥ心打たれることよ。

評価の基準　Ａ＝２／Ｂ＝２〔尊敬の訳出。〕／Ｃ＝２〔同内容であれば可。〕

　　　　　　／Ｄ＝２〔尊敬の訳出。〕／Ｅ＝２〔同内容であれば可。〕

【確認問題】

１　ａ＝イ　ｂ＝ア　ｃ＝ウ　ｄ＝エ　ｅ＝イ

２　①＝ウ　②＝イ（アは、ウは、エは）

３　ｆ・イ

【補充問題】

４　ア

５　Ⅱ＝エ　Ⅲ＝ア

６　Ａ＝イ　Ｂ＝ア・ウ

【現代語訳】

　こうしているうちに、（四月の）月末になって、たいそう安産で男皇子がお生まれになった。（ご出産の）気配もなくいらっしゃるうちに、（男皇子が）お生まれになった。人々が（ご出産の報を）聞きつける間もないほどでいらっしゃった。藤壺の父、母は、お喜びになることこの上ない。（今度の出産は）どうなることだろうか、と思っていたこともあったものの、何事もなくご出産なさったので、お生まれになった皇子を、（お二人とも）慈しんでいらっしゃる。

　東宮から、お手紙が何度も送られてくる。藤壺の父は、親しくお仕えする女房を御前に呼び寄せて、（藤壺に）いろいろと食事の用意をしてさしあげなさる。思うように女房たちができないと、御自ら準備をなさる。同じ母の御腹のご子息たちは、（出仕をせずお部屋に）こもっていらっしゃる。（藤壺の父が）御自らご準備なさっているので、ご子息たちも、「何か（私どもも）いたしましょうか」と申し上げなさると、藤壺の父は、「お前たちは、まだまだ不馴れであろう。このじいさんはたくさんの子どもや、孫の母をいたわることに慣れているのだ。このような産婦を、こういう（出産の）時にはよくいたわり、心を配ってやれば、器量も特に損なわれないものだ。東宮が寵愛してくださっているのだから、やつれた姿にさせないで参内させたいものだ」とおっしゃって、いろいろとご馳走を準備して差し上げなさる。

　産養をなさらない人はなく、たいそう美しい品々を届けなさる。東宮から、七日の産養は、御屛風や、御座からはじめなさって、長持で足のついているものを三つ、唐櫃を五つに、綾、錦からはじめて、さまざまな品々を贈りなさった。お手紙もあった。御使いは東宮大夫（である）。

　度々のお手紙を拝見しました。ご自身（＝藤壺）でお書きでないので、（どうしたことかと）心配で（した）。なんとか（無事に生まれてほしい）と思っていた甲斐があったのであろうか、何事もなくご出産なさったようで喜んで（います）。（出産にかかわる）すべてのことは見てはいけないことになっていたのは、改めたく（思います）。さてこれは、里に下がっているあなた（のため）にということで（贈りました）。たくさんの子の親におなりになったことを、たいそう愛おしく（思われます）。今は、早く対面したいとばかり（願っています）。そうできるのでしたら、少しだけでも、ご自身の筆でお返事ください。（夢の途中で）起こされたとしても、きっとしっかり拝見いたそう。

と書き申し上げなさった。

　藤壺の母君がご覧になって、「このように（東宮が）人の親におなりになって、心を配っていらっしゃることが心打たれることよ。『心配だ』と（東宮からの手紙に）あるようなので、お返事を、臥したままでもお書き申し上げなさいませ」とおっしゃるので、お書き申し上げなさる。

　お手紙を拝読いたしました。まだ筆も執ることができませんで、「心配だ」とお書きになっていたので、臥したまま手紙をお書き申し上げています。どう（なってしまうのだろう）と思い嘆いておりましたが、今日まではこうしてお手紙をさしあげられ（るほどには過ごしてまいり）ましたが、これから先のことはどうでしょうか（＝これから先のことはわかりません）。「人の親に」とかおっしゃったのが、一方では「闇に（＝子を思うゆえにいろいろと悩み惑うことになる）」とかいうことを（古歌では詠まれています）。今はこのように思っております。旅人（＝藤壺自身）にお与えになったものは、（宿の）主（＝藤壺の父）までが喜び申し上げております。詳細は（いずれまた）。

とお書きになったので、藤壺の母が（その手紙を）お包みになって、御使いに女性の装束、下人に禄などをお与えになって、（お返事を）差し上げなさった。

　一の宮の御方から、産婦の藤壺の食膳、稚児の御衣、おむつが、たいそう綺麗に整えられて献上された。白い折櫃に黄色の染料で絵を描いて、白銀、黄金の銭が積んであった。御石の台（の上）に、例の鶴（の作り物）が据えられてある。

洲浜に、

　（お生まれになった皇子の）将来のことにあれこれ思いを馳せます。石の上に千歳を生きるという鶴がたくさんいるのが見えたので。

と大将の君の筆跡でお書きになっていた。